

山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

2月号



Yamaga City Medical Center



発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420(代)
FAX 0968-44-0071(連携室直通)

令和7年度 開放型病院運営協議会総会を開催しました

12月12日(金) ゆとりろ山鹿において、令和7年度 山鹿市民医療センター開放型病院運営協議会総会を開催しました。鹿本医師会を始め、山鹿市歯科医師会、山鹿地区薬剤師会の先生方、医療関係者を含め約80名の皆さまにご参加をいただきました。



総会の前に地域医療支援病院運営委員会及び開放型病院運営協議会を開催しました。医療連携に関して、救急車の受け入れ件数がここ数年で1500台に近づいていること、大型医療機器を多く利用いただいていること、必要な基準をすべて満たしている事が報告されました。

総会では、別府病院事業管理者が、鹿本医師会や各医療機関のご協力により紹介・逆紹介等の地域医療支援病院としての体制が継続出来ていることに対してお礼を述べられました。

議事では、工藤副院長(連携室長)が「紹介率及び逆紹介率」や「大型機械共同利用」などの実績を報告しました。



ミニ講演会は、熊大消化器外科 井田 智医師に『胃・十二指腸腫瘍に対する低侵襲・機能温存手術の最前線』について講演いただきました。腹腔鏡・内視鏡合同手術については、当日に当センターで実施した、最先端の手術について画像を用いて説明され、山鹿で高度な治療が可能であることをアピールいただきました。

次に、4月から診療をスタートした泌尿器科の中村圭輔医師が、「外来でよく診る泌尿器科疾患～初期対応と紹介のタイミング～」についての講演を行いました。



総会終了後には三師会懇親会が開催され、多くの先生方に参加いただき、鹿本医療圏の連携について意見交換などを行い、和やかな雰囲気での懇談ができました。

今後も引き続き地域医療支援病院として地域の先生方との連携を密にし、本会及び地域医療の発展に尽力してまいりますので、一層の御支援とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(文責：地域医療連携室 宮園 清子)

CONTENTS

開放型病院運営協議会総会を開催しました…	P 1
緩和ケア研修会に参加して ……	P 2
医療最前線(172) ……	P 3
第87回公開講演会のご案内 ……	P 3
外来担当医表(2月) ……	P 4

※令和8年1月15日から山鹿市民医療センターのホームページをリニューアルしております。
スマートフォンからも閲覧いただけます。
URL : <https://yamaga-medical-center.jp/>



第5回緩和ケア研修会に参加して

～令和7年11月30日(日)、緩和ケア研修会が開催されました～

今年度から緩和ケア病棟へ配属となり知識やケアについて学びを深めているところです。今回の緩和ケアPEACE研修での時間は有意義なものであり、参加出来たことに感謝しています。

ロールプレイでは医師役、患者役、観察者役を演ずることで、それぞれの状況や気持ちを考えることができました。患者役では看護師の声のかけ方や声のトーン、表情が大切であることを実感しました。また症例を通してのディスカッションでは患者さんへの治療の進め方や看護ケア、自宅退院に向けての考え方や方法を学ぶことができました。他職種との連携が患者の安楽支援に繋がることであり、早期から連携していくことが大切であると学びました。毎週



緩和病棟では緩和ケアカンファレンスを行っています。医師、他職種との連携を活かし患者さんの疼痛緩和、安楽支援、退院支援をしていきたいと思っています。

(文責：緩和ケア病棟看護師 豊後 裕美子)

今回はくまもと県北病院の赤星慎一先生、大牟田天領病院の佐藤伸隆先生、そしてセンター内から堀和樹医師、織田枝里医師、豊福貴子看護師長をファ



シリテーターに迎え、緩和ケアの本質について多角的に学ぶことができました。私は作業療法士として参加し、緩和ケアは症状緩和にとどまらず、患者さんの生活・役割・価値観を尊重し、その人らしい時間を支える支援であることを再認識しました。特に身体機能だけではなく心理・社会的背景を含めて全人的に捉える重要性をあらためて実感しました。また、他職種それぞれの視点やアプローチを知ること、自分の専門性をどのように連携の中で活かすべきかを整理する良い機会となりました。今回得た学びをこれからの臨床で活かし、より質の高い支援につなげていきたいと思っています。

(文責：リハビリテーション科 松林 佑)

緩和ケア研修はe-learningと実技(ロールプレイ/グループ演習/ワークショップ)の2パートからなっており、緩和ケアについて総論から各論まで学ぶことができました。特に医療従事者としてのコミュニケーションの取り方や患者の状態把握や苦痛に対する緩和ケア、また療養方法の選択や地域連携、患者支援や家族のケア等を学びました。

日常業務では視能訓練士として緩和ケアに携わることが少ないため、研修では初めて聞くことが多く、新鮮かつ戸惑いでいっぱいでした。特に初めて聞く薬剤名や用法、病態把握の仕方、行政サービスなど「へえ～」と思うことばかりで内容に付いていくのがやっとでした。

この研修を通して良かったと思う点として、コミュニケーションスキルとして、オープンクエスションの有効性やいかに患者の気持ち・気がかりをさぐるかや沈黙など緩和ケア以外でも日々の診療で使えるテクニックであり、スキルの上達を目指したいと思いました。

またグループ演習において1症例の緩和ケアについて、多職種の立場からいろいろな意見が出て、私

1人では到底思い浮かばない意見や状態把握の仕方を通して、チーム医療の重要性を改めて感じました。私個人として、昨年10月にがんで義母を亡くし1年以上が経過しましたが、e-learningと実技を学ぶ中で、当時の情景が浮かび、目頭が熱くなることが何度もあり、自分では気づいていなかったけど、まだ癒えていない気持ち部分があるのだと思うと同時に、義母のときに正解はないのかもしれないが、「あー出来たかも、こー出来たかも」と振り返る機会にもなりました。この研修を医療従事者として遺族として学び、とても考えさせられる内容だったと感じています。

(文責：視能訓練士 花田 正和)



医療最前線 (172)



「肝腫瘍の熱凝固・焼灼療法」について

院長
石河 隆敏

腫瘍の根治的治療として加熱による凝固・焼灼療法があり、腫瘍の壊死により有効な癌制御が期待できます。肝細胞癌に対する熱凝固・焼灼治療の効果は証明されており、肝癌治療のガイドラインでは腫瘍径3cm以下、腫瘍数3個以下の場合に肝切除と同等に推奨される治療です。肝癌治療の大きな柱のひとつですが、この治療手技に精通した施設は県内でも多くはありません。当センターには、この治療を県内で最も早くとりいれた熊本大学病院で2000例以上の凝固治療を行った外科医が在籍しています。

以前は、鹿本圏域ではこの治療が難しかったのですが、当センターでの経皮的、腹腔鏡下、開腹手術による治療が可能となっています。現在までに150例をこえる肝癌の熱凝固・焼灼治療を当センターで実施し、安定した治療成績を積み上げています。

治療にはラジオ波（高周波）加熱が一般的ですが、マイクロ波（電磁波）加熱という方法もあり、効率や凝固範囲の広さ等の利点があります。近年、加熱コントロールに優れたマイクロ波発生装置が開発され、当センターはこの次世代装置を導入しています。実はマイクロ波の外科治療は日本のお家芸ともいえるもので、1970年代に世界に先駆けた装置を開発しています。日本の誇るべき技術のひとつであり、日本製のマイクロ波切開装置は当センターの腹腔鏡

下ヘルニア修復術等で活躍中です。

現在、熱凝固・焼灼療法の応用が広がっており、肝臓に転移した癌細胞での有効性も明らかになってきています。ただし、集学的治療の中での肝切除手術や熱凝固・焼灼療法の使い分けが重要で、腫瘍学に精通した医療機関で行う必要があります。当センターは県指定のがん診療連携拠点病院であり、肝癌について腫瘍内科と腫瘍外科のチーム診療を行っており、切除手術、熱凝固・焼灼療法、経血管治療、化学療法を組み合わせた治療が可能です。これまでの多数の転移性肝癌治療の実績について当センターがまとめ、「大腸癌肝転移治療の“理論と実践”」という書籍を海鳥社から上梓しております。国内の著名な医師から高い評価を得ており、書店やネットで購入することができますが、おそらく本邦初の山鹿灯籠を表紙に掲げた医学専門書だと自負しております。

豊富な経験と実績をもとに肝腫瘍治療のセカンドオピニオンも承っております。治療の選択肢や内容についてご相談されたい方がいらっしゃれば、受診いただければ幸いです。（HPをご参照ください）



第87回公開講演会のご案内

（日本医師会生涯教育講座1単位）

取得カリキュラムコード 番号・コード名
35. 肉眼的血尿

下記により第87回講演会を開催いたします。
多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

鹿本医師会会長 幸村 克典
山鹿市病院事業管理者 別府 透
記

日時：令和8年2月13日（金）19：00～
形式：ハイブリッド方式（オンライン参加or会場参加）
会場：オンライン参加 / Zoomミーティング
会場参加 / 山鹿市民医療センター1階医療研修センター
演題：「泌尿器科領域での小ネタオムニバス
～あるあるや実臨床での判断ポイントまで～」

司会：山鹿市民医療センター
泌尿器科長 中村 圭輔 先生

演者：山鹿市民医療センター
泌尿器科 今藤 淳之助 先生

参加費：無料

【参加要領】 下記参加URL、又は参加QRコードからご参加ください。

（参加URL）：<https://zoom.us/j/91662624887>

（参加QRコード）⇒

ミーティング ID：961 6262 4887

パスコード：233321



※ミーティングに参加される際の【名前】欄には、必ず「氏名」と「医療機関名」をご入力ください。

※快適にご視聴いただくため、イヤホンやヘッドセットのご使用をお勧めいたします。

お問合わせ先 📍 山鹿市民医療センター
地域医療連携室 西田・古家
TEL:0968-44-2185 FAX:0968-44-0071

※共催：鹿本医師会
山鹿市民医療センター医療研修センター運営委員会

外来担当医表

2月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※ 古川 嗣大	※ 赤池 公孝	※ 後藤 英介	—	※ 後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	※ 宮本 英明
消化器内科	中垣 貴志	竹熊 梨祐	本原 利彦	中垣 貴志 竹熊 梨祐	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	※ 中山 智子 清水 博	清水 博 大庭 圭介	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	横田 秀峰 樽美 山口	工藤 智志 樽美 山口	手術 (担当医)	工藤 智志 横田 秀峰	手術 (担当医)
外科	別府 透 石河 隆敏 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透(新患のみ) 石河 隆敏 / 増田 稔郎 辛島 龍一 / 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透 増田 稔郎 辛島 龍一
乳腺外科(予約制)	—	※ 富口 麻衣	—	—	—
泌尿器科	中村 圭輔	手術(担当医)	今藤 淳之助	※ 神波 大己 教授	中村 圭輔
小児科	小澄 将士	小澄 将士	小澄 将士 (午後：予防接種)	小澄 将士(午前) ※ 石井 真美(午後)	小澄 将士
*小児科の午後は、16:00受付終了となります					
耳鼻咽喉科(予約制)	—	非常勤医師	—	非常勤医師	—
眼科(予約制)	手術	特殊再来のみ	古島 京佳	古島 京佳	古島 京佳(午前) 非常勤医師(午後)
産婦人科	非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	※ 片渕 美和子(午後) (受付13:00~16:00) 婦人科・思春期・更年期	—	非常勤医師(午前) ★ 非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	非常勤医師 (午前)
緩和ケア内科(予約制)	織田 枝里	堀 和樹	織田 枝里	堀 和樹	—
総合診療科(予約制)	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	泌尿器科医(午前) 吉岡 明子(午後)	吉岡 明子	大庭 圭介(午前) 清水 博(午後)	奇数週：担当医 偶数週：吉岡 明子	外科医(午前) 消化器内科医(午後)
健診	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂

◎診療受付時間は、8:30(予約再診の方は8:00)~11:00

◎当日の受診に関する相談を除くお電話は、平日14時から17時までが受付となります。

※ 非常勤医師です。 ★ 第2、第4のみ診療となります。

特殊・専門外来【予約制】

2月

名 称	担 当 医 等	実 施 日	診察場所
外 来 化 学 療 法	担 当 医	毎週 火曜・水曜	各 診 療 科
	※ 宮 本 英 明	毎週 金曜（がん薬物療法専門医）	
睡 眠 時 無 呼 吸 外 来	担 当 医	—	Aブロック
小 児 科 予 防 接 種	小 澄 将 士	毎週 水曜（受付時間13:30～16:00）	
ス ト ー マ 外 来	担 当 医	毎月 第3水曜（午後）	Bブロック
P E G 外 来	担 当 医	毎月 第2水曜（午後）	
セカンドオピニオン外来	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎急患の場合は、この限りではありません。

ご注意：学会等の都合で変更になる場合があります。

◆睡眠時無呼吸外来については、現在は新規予約の受付を行っていません。

◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター

〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地
TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420(代)
FAX 0968-44-0071(連携室直通)
<http://yamaga-medical-center.jp>